



ときめき人

Tokimeki bito



モノクロで描く 抽象世界 ボールペン画で 二科展特選

津山町・本町四丁目

白石 一宏さん

しらいし かずひろ
1974年生まれ



受賞作=「破片」

Profile

市内企業に勤める傍ら、休日などの時間を活用して作品づくりにいそしむ。無類の音楽好きで、制作の際には、ニルヴァーナなどの洋楽グランジ・ロックを聴きながら、自室で黙々と筆を走らせる。

「自分の作品がまさか『特選』だなんて、夢を見ているような気分でした」。第109回二科展の絵画部で、白石さんの作品が、応募総数1524点の中から4点に贈られる特選に輝いた。

絵画との出会いは4年前、東京でふと立ち寄った、世界的アーティスト「バンクシー」の作品展で感銘を受けたことがきっかけ。絵の経験はほとんどなかったが、「自分もこんな作品を作りたい」と、100円均一ショップでキャンバスとアクリル絵の具を購入し、衝動のままに描き始めた。その年の11月、「登米市美術協会展」の会場で出会った及川英之会長の勧めから、「迫にぎわい絵画教室」に通い始め、二科展への挑戦をスタートさせた。

最初は主にアクリル絵の具を使用していたが、

新たに挑戦したボールペン画で才能を開花させた。今回の受賞作「破片」は、東日本大震災で生じたがれきの処分の様子を、黒のボールペンのみで表現した抽象画だ。やり直しの利かない一発勝負の制作は5ヶ月に及び、使用したペンの本数は優に70本を超えた。多くの苦労や工夫が実を結び、講評では「瓦礫の一つ一つが細胞のようで、作者の気持ちが表れている」と高く評価された。

「今回の受賞は支えてくれた皆さんのおかげ」と白石さんは感謝の思いを口にする。「念願だった市美術協会への加入もかない、今後は、絵を学ぶきっかけとなった『協会展』に自分の作品も並べることができます」と喜びをかみしめる。ペン先から生まれる重厚な世界に、今後も目が離せない。

編集後記

▼全国的に広がる消防指令センターの共同運用。県内では、「宮城県東部消防指令センター」が初の試みとなりますが、119番のかけ方や車両の出動場所はこれまでと変わりませんが、通報の際には「住所を『登米市』から伝えること」が大切になります。(添田)

▼年末に休日当番医にお世話になりました。市公式LINEでは、前日に当番医のお知らせを受け取る設定ができます。体調が悪い時にもすぐに連絡することがで、今回この機能のありがたみを感じました。いざという時に助かるので、皆さんもぜひ登録と設定をしてみてください。(森田)

▼またも秋から正月にかけて食欲と体重が増加。ふと思いついたのは、昔の食品関係のキャラクチコピー。「生まれた時からどんどんぶり飯」や「わんぱくでもいい、たくましく育ってほしい」など、面白くて今も記憶にあります。私もすごいのがひらめくように初詣でおねだり。頑張れ、神様。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報を配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>